

## 平成27年度 医療事故等行為別件数及び障害区分レベル4・5の概要

### (1) 医療事故等行為別件数

	インシデント						アクシデント			
	0a	0b	0c	1	2	計	3	4	5	計
薬剤	119	27	6	542	50	744	7	1	1	9
輸血	1	0	0	5	1	7	0	0	0	0
治療・処置	18	10	4	57	13	102	11	5	0	16
医療機器等	11	6	0	27	1	45	4	0	0	4
ドレーン・チューブ	8	5	0	67	38	118	5	0	0	5
検査	111	17	3	190	62	383	3	0	0	3
療養上の世話	44	76	4	513	84	721	22	1	0	23
その他	122	31	10	152	24	339	1	0	1	2
計	434	172	27	1553	273	2459	53	7	2	62

### (2) 医療事故 障害区分レベル4・5の概要

1	4	概要	肺炎治療目的に入院 夜間に心筋梗塞を発症し急性肺水腫で呼吸困難となり緊急カテーテル検査を実施した。
		対応	胸部症状がなくても急性冠症候群を疑う所見があれば速やかに循環器内科医に相談する。
2	4	概要	骨盤骨折 手術後左大腿神経麻痺症状あり。手術の際、筋肉を剥離するときに左大腿神経を損傷した可能性があった。
		対応	合併症発症に注意し手術手技はより慎重に行う。
3	4	概要	誤嚥性肺炎・認知症 訪室するとベッド横で転倒していた。硬膜下血腫で緊急手術(血腫除去術)となった。
		対応	認知症・せん妄発症の患者に対しては引き続き個別の看護ケアの提供と頻回な訪室を行う。
4	5	概要	再生不良貧血 患者は遷延性意識障害で救急搬送、高マグネシウム血症と診断され翌日死亡した。 医師は排便困難症に対して酸化マグネシウム(緩下剤)を処方していた。
		対応	高齢患者に対しては合併症・併発症発症に注意し引き続き綿密な観察を行う。 医薬品医療機器総合機構に副作用報告を行う。
5	4	概要	膀胱癌、大腸浸潤直腸狭窄 ストーマ造設のための状態評価を目的とした大腸ファイバー前処置で経口腸管洗浄剤を服用しショック状態となった。
		対応	慎重投与事例に対する手順書整備を行う。
6	4	概要	糖尿病性腎障害 日中、人工血管内の血栓閉塞に対し抗凝固薬、血栓溶解剤を使用した。20時頃 意識レベル低下し頭部CTで脳出血と診断、 緊急手術となった。
		対応	シャント治療のリスクについて十分なIC(説明と同意)を行う。
7	5	概要	腰痛症 自宅で動けなくなり救急搬送。対症治療目的に入院。翌日、深夜に突然の心停止となった。
		対応	高齢患者に対しては合併症・併発症発症に注意し引き続き綿密な観察を行う。
8	4	概要	総胆管結石 内視鏡的に乳頭切開術施行。その後同部位から後腹膜腔への穿孔が認められた。続発した後腹膜膿瘍に対し後腹膜腔ド レナージ施行、そのドレーン入れ替え時、心肺停止となった。
		対応	合併症発症に注意し内視鏡手術はより慎重に行う。
9	4	概要	転移性脊椎腫瘍、肝細胞癌、両下肢麻痺 胸椎転移性脊椎腫瘍に対し放射線治療中であったが、下肢麻痺が進行してきたため、緊急手術を行った。翌々日、下肢の動 きが不良となったため、原因と考えられる血腫除去を行ったが、下肢麻痺の改善は認められなかった。
		対応	患者には治療方針、合併症などの十分なIC(説明と同意)を行う。

\* 平成27年度 医療安全管理指針改訂により『障害区分レベル4, 5』を規定に基づき公表

\* 公表については個人情報保護に配慮した内容にしています